

平素より、患者さんのご紹介をいただき、有難うございます。  
 当院では、小児科以外は予約制で診察を行っております。  
 患者さんのご紹介に際しましては、紹介状をご用意いただき  
 お取りいただきますよう、お願い申し上げます。

**事前に必ず予約を**

**医療機関からの予約は 地域連携直通電話・FAX へお願いします。**  
 TEL: 047-458-6543 FAX: 047-458-6545

- ・ 受付時間: 月～金 9:00～16:00 土 9:00～11:30  
 ※ 日曜、祝日、毎月第3土曜日、12/5(創立記念日)、12/30～1/4 休
- ・ 時間外の場合は FAX を送信してください。翌受付時間内にお返事いたします。

**患者さんからの予約は 電話予約センター にて承ります。**  
 予約センター電話番号: 047-458-6600 (患者さん専用)

- ・ 最初に音声ガイダンスが流れます。紹介状をお持ちの患者さんは 1 を押していただけます。
- ・ 受付時間: 月～金 9:00～16:00 土 9:00～12:00  
 ※ 日曜、祝日、毎月第3土曜日、12/5(創立記念日)、12/30～1/4 休
- ・ 予約時間等の変更時にも、必ず電話にてご連絡ください。

**■検査連携について**

- ・ 検査連携は、医療機関からの依頼のみの受付になります。直接、患者さんからの受付は出来ません。
- ・ 連携検査: CT、MRI(単純)、RI、X-P、マンモ、骨密度、セファロの画像検査のみ

**■やちよ夜間小児急病センターについて**

- ・ 専用電話番号: 047-458-6090 (医療相談は行っておりません)
- ・ 受付時間: 18:00～23:00  
 ※予約は必要ありませんので、直接ご来院ください。

**■泌尿器科の受診について**

- ・ 当院泌尿器科への受診依頼について、初診時のスムーズな診察を目的に、当院泌尿器科への診察予約を受付ける際、併せて診療情報提供書の FAX をお願いしたいと存じます。また、患者さん自身が診察予約を受付ける際、当院職員から受診医療機関にお電話させていただき、診療情報提供書の FAX を依頼させていただくことになります。  
 初診時のスムーズな診察のためにも、何卒、ご理解、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

理念・地域社会に信頼される病院としての心温まる医療と急性期・高機能・先進医療との調和

～ 基本方針 ～

- ・ 本学の理念である「至誠と愛」に基づき、皆さまに信頼される病院を目指します。
- ・ 患者さんのプライバシーを守り、一人ひとりの権利を尊重します。
- ・ つねに最先端の医療技術と知識を用いて、安全で良質の医療を提供します。
- ・ 患者さんに合った最善のチーム医療を行います。
- ・ 中核病院として地域の診療所・病院等との連携を推進し皆さまの健康を維持・増進します。



**院長就任のご挨拶**

このたび、平成 27 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日の 2 年間、東京女子医科大学 附属八千代医療センターの院長職を引き継ぐことになりました。今ひしひしと、責任の重大さを実感しております。前・寺井勝院長の時代に企画され、スタートした新病棟増築プラン(146 床増床)は、全職員の皆様の並々な努力で本年度 5 月より着工し、平成 28 年 9 月頃には、501 床の高度急性期病院として診療業務を始める事になります。これも一重に病院を取り巻く多くの八千代市の方々や女子医大の伝統を脈々と受け継いで支えてきた諸先輩の方々のご協力・ご支援があったからこそと思ひ、深く感謝すると共に心より厚く御礼を申し上げます。

さて、新病院は本学の理念である「至誠と愛」を理念として、21 世紀の地域社会に信頼される病院として、心温まる医療かつ高度急性期医療と先進医療との調和を目指し、かつ 170 万人を有する東葛南部二次医療圏の中核病院として、診療所や病院との連携を推進していきたいと存じます。今後新病院は従来の当院の特色である小児・周産期センターをさらに充実させていきます(拠点病院化 小児救命センターとしては全国で 9 番目を目指す)。

また、将来の高齢者増加に伴う地域疾病構造の変化に柔軟に対応すべく、心・血管系疾患(heart center)、脳血管疾患(stroke care unit、ICU、BCU の増設)、悪性新生物(がんセンター、地域拠点病院化)、糖尿病などの成人医療を重点的に整備していくこととなります。精神・神経疾患は地域に専門病院が豊富である利点を生かし、地元の病院と連携をますます深めていきたいと存じます。さらに新棟の最上階にヘリポートを設置し、救急救命センターをも新設いたします。その結果、全国でもめずらしい小児と成人の救急救命センターを持ち、地域災害拠点病院もかねることになります。

このような高度急性期医療は、一病院で完結することは不可能で、より地域の病院・診療所や在宅介護施設の皆様とともに、地域完結型の新しい医療を目指すことになると考えられます。新病棟の開院と病院組織の再編成を行い、新しい地域完結型の医療を軌道に乗せ、地域住民の皆様や女子医大全職員のご期待に応えることが私の仕事と考え、今後の病院の造改築・整備を進めていきますので、今まで以上に皆様方のご理解・ご支援をお願い致します。



副院長  
(医療局担当)  
船津 英陽



副院長  
(医療支援局担当)  
橋本 尚武



副院長  
(医療安全対策局担当)  
関根 康雄



副院長  
(看護局担当)  
白石 和子

皆様にはいつも温かいご支援、ご指導を賜り、心より感謝申し上げます。

平成18年12月8日開院当初、常勤医師数は74名、非常勤医師52名でしたが、毎年徐々に医師数が増加して、平成27年3月1日現在、常勤医師数169名(初期研修医を含む)、非常勤医師125名と増加してきました。診療科数は34科になり、多くの分野の診療が可能になってきました。各診療科が互いの顔が見え、直接の相談や密接な院内連携が共有できるように、すべての医師は同じ医療局の部屋の中に机を持っています。新規に当院に赴任した医師に対しては、オリエンテーションを行い、当院の理念、基本方針、電子カルテシステム、当直システム、各種書類作成などについて周知しています。

今後とも、当院との密接な医療連携のほどよろしくお願いいたします。

当院は2006年12月の開院からはや9年目を迎えようとしています。この間地域の先生方には、医療連携を中心に、また市民の皆様にもご支援いただき、千葉県だけではなく全国的にも少しずつではありますが、客観的な評価をいただき、職員一同感謝申し上げます。

医療支援担当副院長として考えるに、今後の課題はまだ山積しています。大きな問題として、紹介、逆紹介のさらなる充実です。紹介をいただく立場として、すみやかに予約できる体制を整えることが急務です。これに関しては、登録医の先生による予約枠を各科に開設してもらい、優先的に予約できるようにいたしました。今後様子見てさらなる充実を目指します。

次に逆紹介も、安定した患者さんの逆紹介を確実なものにしたいと思っております。開院後一時逆紹介が徹底されていない時期があったことも事実ですが、最近は改善されていると思っておりますし、これに関するデータを年次ごと解析する予定にしています。今後も皆様の忌憚ないご意見をいただき、医療連携の改善、充実に励んでいきたいと思っております。

本年1月から新たに医療安全担当副院長となりました関根と申します。よろしくごお願いいたします。昨年まで医療安全対策部長として病院全体の医療安全向上に努めて参りました。本年からは更にその重責を担って、地域の皆様に安心安全を届けることが出来るよう努めてまいりたいと思っております。

組織の信頼の第一は、安全と安心であることは全ての分野に共通しております。特に病院は生命の安全という最も重い安全に直結しており、職員一同常にそのことを意識して日々努力を重ねております。人はミスをするものを前提に、システムと相互協力にてミスを少なく小さなものにしていく組織作りを進めております。最近マスコミで批判が出ている医療問題の根本は、安全に対する意識の低下以上に、情報の隠蔽と相互に問題点を指摘しあう環境の欠如ではないかと思われまます。私たちは、様々な分野の職員からの意見を集約し、横のつながりの強化により、大きなミスを未然に防ぐ努力と情報を隠さず提示する組織体制を堅持しています。

今後とも八千代医療センターへのご理解とご協力をお願い申し上げます。

皆様にはいつも温かいご支援・ご指導を賜り心より感謝申し上げます。

看護局は、4月より62名の新入職員を迎え、新年度がスタートいたしました。昨今の学生は、大学病院離れと言われている中、やる気があり、よい教育を受けたい、自分らしい看護をしたいと願う新入職員を迎えられたことに心から感謝しています。

今年度も、師長・主任・クリニカルコーチ(部署の教育担当)・プリセプター(新入職員の教育担当)を中心にチームが丸となって新入職員を教育・支援していきます。

看護局は、患者さんが安全で安心できる看護の提供、看護師一人ひとりが、自分のやりたい看護を、自分らしくチャレンジできるようなキャリア支援に取り組んでいきます。そして、一年後の増床に向けて看護局の役割を遂行し、更に「あたたかい・夢の持てる病院」を目指していきたく思います。今後、益々地域との連携が必要となります。地域一体化型のチーム医療を推進するために、医療支援室と協力してまいりますので、今年度もご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 消化器外科ご案内

科長 片桐 聡



消化器外科が取り扱う臓器は管空(消化管)と実質(肝臓)の二つに分かれます。以前は消化管外科と肝臓外科に分かれていましたが、実診療ではoverlapする症例が多いことから現在は統合した診療体制になっています。良悪性腫瘍、炎症性疾患に対して外科的処置を施して治すのが私たちの使命です。また、鼠径ヘルニアや皮下腫瘍などの体表腹壁の外科治療も行っています。

年間手術数は450例を超え年々増加しています。日本外科学会専門医(12名)・指導医(5名)と日本消化器外科学会専門医(7名)・指導医(5名)から、肝臓外科高度技能指導医(新井田、片桐)、食道外科専門医(中村)、内視鏡外科技術認定医(大石)も在籍し、あらゆる消化器疾患に対して専門的な診断治療ができる体制を整えています。また、がん薬物療法専門医(倉持)を消化器外科チーム内に配しており、最新のがん化学療法を受けることが可能です。

院内各科との相互連携も強化しています。救急科と連携下で腹部救急(虫垂炎、腸閉塞、消化管穿孔など)に対しては迅速に対応しています。内視鏡科と最新のMinimal invasive surgeryである腹腔鏡・内視鏡合同手術(LACS)も導入しました。緩和医療に関しては緩和医療学会指導医(平井)のもと、在宅医療、地域連携に力を入れています。

新井田院長をはじめとして精鋭13名+αの研修医で日々研鑽を積んでいます。お困りの患者様に関してはいつでもご連絡ください。今後とも宜しくお願いいたします。

【スタッフメンバー紹介】

氏名	職名	専門分野	外来日
新井田 達雄	教授・病院長	消化器外科、肝臓、胆道(胆嚢、胆管)、膵臓疾患の診断と治療、重症治療	水(午前)
中村 努	臨床教授	消化器外科、食道外科	火(午前)
片桐 聡	准教授 診療科長	消化器外科、肝臓外科、腹部超音波	金(午後)
大石 英人	講師	消化器外科、一般外科、内視鏡下手術、低侵襲性外科治療(MIS)	木(午前)
鬼澤 俊輔	講師	肝臓、胆道(胆嚢、胆管)、膵臓疾患の診断と治療、消化器癌の抗がん剤治療	金(午前・午後)
倉持 英和	講師	消化器がん化学療法	月(午前) 木(午前)
濱野 美枝	准講師	肝臓、胆道(胆嚢、胆管)疾患の診断と治療、内視鏡下手術、消化器癌の抗がん剤治療、栄養管理	金(午前)
平井 栄一	准講師	消化器外科、一般外科、緩和医療	火(午前) 土(午前)※部分のみ
飯野 高之	医員	消化管外科	水(午前)
石井 雅之	医員	外科全般	木(午前)
石多 猛志	医員	外科全般	火(午前)
岡野 美々	医員	消化器外科、一般外科、胆道疾患	月(午前)
毛利 俊彦	医員	外科全般	—



## 神経小児科ご案内

科長 高梨 潤一



神経小児科は、2014年に発達小児科から名称変更されました。小児のさまざまな神経疾患や障害の診療を行っています。主な診療分野はてんかんなどのけいれん性疾患、先天異常や围産期障害、急性脳症などの急性疾患、それに起因する運動障害、知的障害、また注意欠陥多動障害などの発達障害です。日本の小児特有である急性脳症の2主病型（けいれん重積型（二相性）脳症 [AESD]、脳梁膨大部脳炎脳症 [MERS]）を確立し、その臨床像、病態、治療法の開発に尽力しています。また、神経疾患の診断治療に欠かせない脳の画像診断（MRI, MR spectroscopy）では、全国の施設から患者さんの相談がよせられています。

様々な障害を持った小児の診療であるため、単に疾病の治療だけではなく、患者さんとそのご家族が抱える発達過程でのさまざまな問題を、かかりつけ医や地域・学校との協力関係の中で解決・軽減するよう努めています。今後も近隣の先生方と密接に連携し診療にあたりたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

【スタッフメンバー紹介】

氏名	職名	専門分野	外来日
高梨 潤一	准教授	神経疾患・画像診断	月(午後) ※第24 月・水(午後) 火(午前) 金(午前)初診のみ ※第1,3 土(午前) ※第24
林 北見	准教授	神経疾患・発達障害	
白戸 由理	医員	神経疾患・発達障害	月(午後)
森山 陽子	医員	神経疾患・発達障害	火(午後)

## 薬剤部ご案内

部長代行 小林 恵美子



皆様にはいつも外来患者に継続した良質な医療のご提供を賜り、心より感謝申し上げます。

当院の薬剤部は、薬剤師20名、事務職員1名、医薬品供給管理担当職員(SPD)8名が勤務しています。

薬剤師は、がん薬物療法認定薬剤師、日本糖尿病療養指導士、漢方薬・生薬認定薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師等、様々な分野で活動し、私自身も妊婦授乳婦薬物療法認定薬剤師を取得しています。他にも感染対策委員(ICT)や栄養サポートチーム(NST)の一員として日々活躍しており、これらの専門性を活かし、薬物治療における有効性や安全性の確保に責任を持ち、医療スタッフの協働・連携によるチーム医療に貢献し、患者さんに安全かつ最も効果的な薬物治療を提供していきたいと考えています。

また、当院は、地域医療支援病院であり、八千代市内や地域の医療機関・保険薬局と更に連携を深め、患者さんが継続性のある適切な医療を受けられるよう、当院の理念である「地域社会に信頼される病院としての心温まる医療」を実践していきたいと思っております。

今後とも、多くの皆様方にお力添えをいただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 新生児科ご案内

科長 佐藤 雅彦



新生児科では、院内および院外で出生された医療的ケアの必要なお子さんの入院治療と退院後の発達外来を担当させていただいております。当院は総合周産期母子医療センターに指定され、母体胎児科の先生とともに、緊急対応を要する新生児や母胎搬送、先天的にご病気の疑われる胎児の外来診療まで、時には出生前よりお母様と赤ちゃんに広くかかわる診療を行っています。

新生児科病棟は新生児集中治療室(NICU)21床、後方病床であるGCU16床からなり、早産のお子さんから、生まれつきご病気をもったお子さん、早期に外科手術を必要とするお子さんなどを24時間体制で受け入れ、年間300名前後の赤ちゃんがご入院されます。当院の特色として出生直後からの持続陽圧呼吸や非侵襲的呼吸補助療法を積極的に取り入れ、たとえ小さなお子さんであっても出来る限り人工呼吸器管理を避ける治療に取り組み、少しずつ成果を上げています。その他状態の安定したお子さんには出生病院やご自宅近くの病



院へ早期に転院していただくことで、母児分離を最小限にとどめ、さらに一人でも多くのお子さんの治療を担当させて頂きたいと考えております。

今後も八千代市近隣を中心に千葉県の周産期医療のお手伝いができるようにスタッフ一同努力していきたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

## 医療支援室より

医療支援室に新しい仲間が増えました！ご紹介させていただきます。

医療支援室 地域連携担当  
課長補佐 増田 弘幸



昨年10月より医療支援室地域連携担当として着任しました増田と申します。

まだまだ、不慣れな点多々ございますが、より一層地域医療機関の先生方との「連携」を強化し、橋渡し役となれるよう努めて参ります。どうぞ、宜しくご指導・ご鞭撻のほど、お願いいたします。

医療支援室  
看護師長 田原 昌子



この度、医療支援室に退院支援担当として配属となりました。

患者さん・ご家族を地域全体で支えられるように、地域の皆様とのより一層の連携を図っていくことができたいと思います。また、ベッドコントロールも兼任しますので、地域の皆様が必要なときに必要な医療を受けることができるように、ベッド活用の効率化を強化して参りたいと思います。

今後とも、ご指導・ご協力の程、よろしくお願いいたします。

# 地域医療連携フォーラム開催!

医療支援室長 縄島 正之

平成 27 年 1 月 17 日 (土)、幕張のホテルザ・マンハッタンにて、「東京女子医科大学八千代医療センター地域医療連携フォーラム」が開催されました。日頃よりお世話になっている八千代市医師会をはじめ、近隣医師会や歯科医師会、薬剤師会、地域医療支援病院における連携登録医の先生方のほか、訪問看護師、リハビリテーション、ソーシャルワーカー、地域連携事務員、八千代市・佐倉市の両市長をはじめとする行政関係者等を含め、総勢 241 名 (院外 147 名、院内 94 名) の方々にご参加いただきました。この場をお借りしまして改めて感謝申し上げます。



\*

フォーラムは講演会と懇親会との二部構成で、講演会では寺井勝前病院長より、これまでの八千代医療センターの歩みと今後の増床計画について講演。また、特別講演として、日本病院会会長の塚常雄先生をお招きし、「これから望まれる病院の姿」をテーマにご講演いただき、我々の目指すべき病院像の指針とすることが出来ました。



寺井 勝 前病院長



塚 常雄 先生

第二部の懇親会・意見交換会では、ホテルザ・マンハッタンのおいしい料理を堪能しつつ、参加者同士が職種を超えて交流する場面もみられ、大変貴重な機会となりました。

\*

当フォーラムは、今後、例年開催する予定となっております。次回は同じくホテルザ・マンハッタンを会場としまして、本年 11 月 7 日 (土) に開催を予定しております。お忙しい時期とは存じますが、多くの方にご参加いただき、ご指導ご鞭撻を賜りたく、なにとぞ宜しくお願いいたします。

# 増床工事について

施設課 課長 清水 洋治

当センターに 9 度目の春が運ってまいりました。この節目に増床棟工事開始の運びとなりました。皆様におかれましては、騒音や振動、ご利用される立体駐車場並びに敷地内誘導路の混雑などで大変ご迷惑をおかけしております事を衷心よりお詫び申し上げます。

このようなご不便をおかけしている状況の中にもありましても一方ならぬご支援とご協力を頂いていることには感謝の言葉もございません。

施設課といたしましては、これ以上のご不便をおかけしないようご迷惑のかかる作業を最小限にする努力を請け負った工事業者である日建設、清水建設と折衝を続けております。同時に、立体駐車場が混雑する平日の月、水、金の朝 10 時~11 時半ごろまでは適宜車両誘導のお手伝いを行っております。また、工事の遅れが起こらないように安全第一を念頭に工事監理のサポートにも注力しているところでございます。

この度の工事は、千葉県保健医療計画である 5 疾病 (がん、急性心筋梗塞、脳卒中、糖尿病、精神疾患) のうち精神疾患を除く 4 疾病、5 事業 (救急医療、災害時医療、周産期医療、小児救急医療をふくむ小児医療、へき地医療) のうちへき地医療を除く 4 事業に基づき、現在の 357 床から ICU6 床を含む 144 床を増やすための建築工事 (がん診療施設施設整備事業) となります。竣工のあかつきには病院規模が 501 床に拡張する事になります。



工事立会い中の清水課長(真ん中)



さて、現在 (4/3 時点) の工事進捗状況についてですが、図の通り駐車場 (2) の解体を継続中です。解体にあたり清水建設にお願いしている事は、①粉塵対策として、粉塵が舞い上がり近隣住宅へ拡散しないように砕いてゆくコンクリートへ放水しながら飛散防止に努める事。②騒音・振動対策として、工事エリアは防音壁を敷設し、且つ防音壁の誰にでも見える位置に騒音・振動計を取り付けて日々監視を行う事。(およそ騒音レベルで地下鉄の車内、電車の中と同じ 75 デシベル。振動レベルで屋内にいる人がわずかな揺れを感じる 55 デシベル前後となっております) ③工事現場付近の安全対策として、複数の警備員を配置して周辺の安全を確保する事。以上の 3 点を軸に工事監視を強化中です。なお、今後のスケジュールですが、現在進行中の解体工事は 5 月のゴールデンウィークごろに終了いたします。その後、地鎮祭を執り行い工事の無事を祈念し、5 月中旬ごろよりいよいよ増床棟建設工事に移ります。すべての工事が終了するのは来年 6 月末の予定となっております。

結びとして、完成後の増床棟概要についてですが、建築面積は約 2,107 ㎡、延べ面積は約 6,991 ㎡。構造は、鉄骨造 (一部鉄筋コンクリート造) で地上 5 階建てとし柱頭免震構造 (2 階より免震構造となり、1 階部分は耐震構造) となります。1 階部分は、入院受付、売店、会議室、がん相談室、エレベーターホールなどが設けられます。2 階部分は、近い将来に救命救急センター構想があり重症患者を受け入れる ICU と特機ベッドが設けられます。3、4、5 階部分は病棟が設けられます。そして、屋上階には災害拠点病院として必要なヘリポートが設置される予定となっております。工事終了まで長丁場となりますが、今後ともご理解の上ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。